

第39回全日本中学生 ホッケー選手権大会

BEST4



川口中女子 石田秀考監督 佐藤優コーチ 柴田梓主将

BEST8



川口中男子 大久保照恵監督 四日市翔大主将



一方井中女子 小野寺広樹監督 小林大亮コーチ 田村花香主将

BEST16



一方井中男子 岩井義則監督 八重樫真コーチ 三浦怜真主将

決勝Tで町勢の敗退が相次ぐ中 復活2年目の川口中女子が奮闘

第三十九回全日本中学生ホッケー選手権大会は八月十四日から十七日まで、福井県越前町の福井県立ホッケー場などで開催された。本大会は、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた男女六十四チームが参加。当町からは、昨年度の覇者一方井女子をはじめ、一方井、川口両中の男女四チームが東北

ブロック代表として参加し、猛暑の中、頂点を目指し全国の強豪との決戦に臨んだ。十五日と十六日の両日行われた予選リーグでは、全チームが予選を突破し、決勝トーナメントに進出した。十六日と十七日の両日行われた決勝トーナメントでは、一回戦で、一方井男子が伊吹山(滋賀)に0-2で惜敗したものの、川口男子が築館(宮城)に3-0、同女子が富来(富山)に6-1、一方井女子が大沢(栃木)に5-1でそれぞれ快勝。しかし、続く準々決勝では、川口女子が蟹

谷(富山)を3-3(PS2-0)の接戦で下し準決勝進出を決めたものの、川口男子が彦根南(滋賀)に2-4、一方井女子が伊吹山に0-1相次いで敗退。唯一の町勢として準決勝に臨んだ川口女子は、伊吹山と対戦し0-4で敗れ、惜しくも町勢2連覇の夢はかなわなかった。しかし、部員不足による長い休部状態を経て昨年度、わずか七人で再出発し、二年生主体の川口女子の奮闘と堂々のベスト4進出は、町勢不振の本大会にあって、ホッケーのまち・岩手町の意地を全国に示した。



青春グラフィティ

決戦 福井

決戦 福井

予感する

日中、奮闘する選手たちを容赦なく照らし続けた真夏の太陽が、夕空を焦がしながら日本海に沈む。選手たちにとって、沈みゆく美しい夕日は決戦までのカウントダウン。真紅の空が、明日の勝利を予感させる。(8月16日、越前海岸)



第39回全日本中学生ホッケー選手権大会
平成21年8月14日～17日 福井県越前町 福井県立ホッケー場ほか



乱舞する

あふれるスピードとパワーで敵陣に迫る川口中男子。圧力に抗し切れず飛び出した敵のゴールキーパーを、まるで鳥が舞うごとく軽々と翻弄。ち密な連携プレーで残敵をかわし、強烈なシュートでゴールを陥れる。(8月16日、決勝トーナメント1回戦 川口 VS 築館)



つかむ

部の復活からわずか2年目で全国ベスト4進出と第3位入賞を果たした川口女子の選手たち。輝くメダルを何度ものぞきこんでは、自らの手でつかみとった喜びをかみしめた。(8月17日、表彰式)



仕掛ける

準々決勝で伊吹山(滋賀)と対戦し、硬直した戦いを打開すべく大胆な中央突破を仕掛ける昨年の覇者一方井女子。試合は惜しくも0-1で敗れ、連覇の夢はかなわなかったが、その堂々たる戦いぶりは覇者の名に恥じぬ貫禄を見せ付けた(8月17日、決勝トーナメント女子準々決勝一方井 vs 伊吹山)



送る

岩手からはるか遠い決戦の地、福井に、30人を超える父母らが、片道1,000kmにおよぶ道のりを越えて駆け付けた。大応援団は愛情を込めて渾身のエールを送り、選手たちとともに一丸となって戦った。(8月16日、越前町宮朝日総合運動場)

臨む

決戦の時は来た。戦いに臨む選手、監督、応援団の表情は不思議なほどに一樣だ。誰もが遠く真正面を見据え、静かに「必勝」の2文字を脳裏に焼き付ける(8月16日、決勝トーナメント開戦直前)

